

さみしい夜の句会報 第1119号 (2023. 5. 28-2023. 6. 4)

- ◆ 参加者：何となく短歌、しまねこくん、菊池洋勝、姫川一桜里、ちゆんすけ、水の眠り、在原涙、syusyu、石川聡、smudde、温(ぬる)、西脇祥貴、石原とつき、雪上牡丹餅、式定佳、須賀善昭、鴨川ねぎ、元さん、たろりずむ、上峰子、奥かすみ、西沢葉火、高遠、小沢史、花野玖、ばざ、上崎、山田真佐明、まきまき、はゆき咲くら、みささゆう、Tano、こたろう、蔭一郎、一人用、たつ、馬勝、おかもとかも、輪井ゆう、風ちひろ、東ころ、入竹野乃子、日下昊、ひうま、みおうたかふみ、流天、佐竹紫田、星見冬夜、あさのつき、のんのん、森砂季、あやめ、さー、涼閑、太代祐一、Ivutopia、此糸むら咲、Take、かのん、糸瓜曜子、抹茶金魚、Ryu sen、むしまんま、PERCHES、めめ、しろうとも、平凡な大人になる前に、えびたからいち、Boh Slipx(モンモン)、みや、Niichtraucherchen、森内詩紋、電車侍、どこでもアス、涼(さ)砂狐、とろばとーる、千春、雷(らじ)、まこりへきん、Tatsuo Kanase、nori、きのきよせ、みくたん、鷺沼くぬぎ、とし、春町、ゆりのはな、宮坂葵鈴、magwort、inaya、yasushi、ツマモヨロ、ユシヤぼむ、月波与生(九三名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

- まだ螺旋階段にいる猫もいる 春町  
池袋東口から目指す海 上崎  
へそ出しの女のへその色見本 太代祐一  
鏡には入りきらない肖像画 さうじ  
夏帽子ケンとメリーと神隠し しまねこくん  
歴代の妻が見上げる宇宙船 たろりずむ  
傷害致死だろうピザカッターならば たろりずむ  
ポイントが貯まる蛸烏賊も貯まる しまねこくん  
カッコウと鳴く鳩時計五月闇 PERCHES

陶器市の戦利品にて新茶かな 菊池洋勝

憐憫をトンビにビンタされたんだ 抹茶金魚

ソワソワとソーダ水から水を引く 太代祐一

音叉からカレーと聴こえたからだろう おかもとも

手裏剣と矢印の角生える井戸 ひうま

西口で一番西にいる者です おかもとも

歯科助手のキラキラネイル多佳子の忌 馬勝

イーロンと宮尾すすむのエクソダス 馬勝

初対面だけれど虹が出ちやつたよ しまねこくん

木苺の染みより深し病かな 菊池洋勝

六月のよこに生えてるレントゲン ちゅんすけ

雨にした人の始末書 西沢葉火

渚にて彼女と魚 西沢葉火

ストローの素材を紙にする仕事 ひうま

証明写真機から五月雨の写真 hyuntoppa

凶鑑から出てきた蝶を売り捌く まつりぺきん

ほんものを見るまでは薔薇のやうだと思つてゐた syusyu

腋のなめらかな調べのイヴの梅雨な挑発 石原とつき

怒髪天天婦羅羅馬鹿鹿尾菜 雪上牡丹餅

「Resentment」 「洗濯機にも毛が生える」 西脇祥貴

月影に踊るカエルに鳴くカエル 弍定住佳

ドンジャラの牌で遊んで七変化 須賀 善昭

もうだめほ 捻れないので休みます 鴨川ねぎ

虹を飼うあなたはどれほどの覚悟 上峰子

卵なき身にもはたはた天瓜粉 小沢史

新築の匂ひ気になる昼寝覚 花野玖

辛子みそが涎たらした月隣 山田真佐明

君だけだ口から虹が出てるのは Meksah

あげられないキーホルダーが手に痛い Tomo

朝焼けに寝ぼけまなこで返事する こたろう

水芭蕉だけを育てる罰ゲーム 蔭一郎

なんでこうロクな話をしない脳 輪井ゆう  
雨の日のテレビドラマも灰の色 東こころ

たすけてと今日も言えずに木下闇 入竹野乃子  
手を伸ばせば触れられるかも知れない木下闇 日下 昊

つぎつぎに羽ばたいている 白マスク みおうたかふみ  
今は無き泉と今も湧く想ひ 佐竹紫円

右頬に二つもできた吹き出物 星見冬夜  
塵を出す朝焼の街ひとりきり あさのつき

もしや古畑任三郎気取りがい のんのん  
キヤラメルがママの手品におびえだす 森砂季

善きサマリアびとたれ●曜日の吾 あやめ  
エホンエホンうどんと暮らしてゐるわたし さー

差し出した手を握りしめ招き猫 涼閑  
柿の種だか三等か 森砂季

薔薇の香よ届け心のおくのおく かのん  
ゆきゆきてピクトグラムは形代へ RYU\_sen

藤壺になった私 むくみんママ  
足の裏洗うしあわせ聖五月 PERCHES

人間もやればできるとアレクサ優しい めめ  
はらわたごと流す夏はやって来る しろとも

合格祈願は落札されました 平凡な大人になる前に  
田蛙の 声や夜雨に けぶる森 電車侍

カムバック愛しき君よ利休梅 とるばどーる  
経血の緩さ消しゴム隠す午後 千春

地下倉庫をマスクに残す黴の香 雷  
黒舟やアブラカタブラ油蟬 Tatsuo Kanase

君と崩す栗のパフェ hori

ドクダミがわたしは苺と唄ひだす きのきよせ  
真夜中の曇り空見ている芒種 鷺沼くぬぎ

もうマスク しなくてもいい マスク顔 とし

喉駆ける不意のミントの葉の涼し    mlgwort

咽び泣く父の補聴器から霧笛    月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

空き瓶に野の花を挿すゆきあいの空に倍率の違う夕陽    み  
さきゆう

気絶もしくは仮死だったルパートの滴のように生きてる  
みさきゆう

夕飯の鯉の刺身余ったのときみのあくびを漬けにしている  
石川聡

冷めきつた鈍色の空飛ぶことを諦めてないペンギンがいる  
みさきゆう

なんてことないってかおをしておくのなんてことないこと  
になるから    みさきゆう

ひとりの夜は単一、単二…の順番を逆にしてほしいと心か  
ら思うよ    たろりずむ

たましいの欠けたところを補完して明日は花瓶の水取り替  
える    蔭一郎

平等のシンボルとして1切れを取る食べたくもないピザだ  
けど    森内詩紋

国道のわきの田んぼの青臭さ店舗にかわりすこしさみしく  
水の眠り

じゃない方可愛くない方紫陽花の似合わない方殻がないだ  
け    みさきゆう

遠ざかる景色にさよなら並べてる引越しセンター後は頼ん  
だ    在原涙

日帰りの旅のように出ていったラマの瞳は深いみずうみ  
水の眠り

さみしさが嵩を増すたび増えていき拡張してゆくピアスホ  
ール 在原涙  
開けた時あなたの笑顔が見れるならまあいいかって思える  
値段 えびたからいち  
五万枚食べたいマリービスケット 万枚はあなたにあげる  
えびたからいち

捨て駒のような配置を繰り返してきて、今さら大事だなん  
て 何となく短歌

母帰宅感動は無し読書して知識パワーアップ母強し 姫川  
一桜里

君の向く方が前だと満月のせいにもして逆さまに言う  
snuddle

初夏の夜風立ち去り風の音若葉散らして虚しく響く 元さ  
ん

ムチャブリをどこ吹く風で終わらせる台風一過 佇む紫陽  
花 奥 かすみ

水縹(みづせ)の水面を見ゆ涙かな君が随とした揺らぎの欠  
片 高遠

空っぽの心を抱え行く身にも分け隔てなく柔らかな風 ば  
さ

ミレニウム生まれのあの子が恋のストおへそとあたま強風  
シーン はゆさく

助けてよあばら屋に降る雨ピンク色キラメキの中日々の地  
獄が 一人用こたつ

何もかもイライラするのでイモムシになっていたいな台風  
通過 風ちひろ

トタン打つ激しい雨を聞きながら浅くて深い眠りに落ち  
紳音

しあわせであれかしと云うあなたが云うしあわせになつと  
いうのはわたし 此糸むら咲

願ってもどうせ叶わぬ事だから心の奥に沈めておくね  
Take

私まだゲームアプリでゲラゲラと笑う貴方を想像出来ない  
層乃ハコ

満たされた気がしていたよ傷口をなぞる指先いたくもなく  
て みや

そんなにも大切ならば社員証だけが会社に行けばいいのに  
Michtraucherhen

平等のシンボルとして一切れを取る食べたくもないピザだ  
けど 森内詩紋

満たされた心は何処かえるのか光届かぬ手入れなき園 ア  
ルト

紙でよく手を切る癖があるあなたバンドエイドを持つ癖の  
あるぼく どこにでもドア

ポスティング雨天決行とはならず傘や雨具で試すも中止  
涼

ああ、しんどは 本当にしんどい わけでなく 疲れをほぐす  
呪文の言葉なの みくたん

簡単に職場で死ねと言う上司扇風機の風死んだみたいで  
ゆりのはなこ

はにかんだ父は背中で泣いていた幸せな日の娘の姿 宮坂  
変哲

◆詩

大事な友達

元氣玉くれてありがとう。

これからは

ちゃんと話すよ。

一人で解決しなきゃって

そうやって生きてきた。

誰かに甘えて良い事を  
教えてくれてありがとう。  
ありがとう。(温(≡))

◆作品評から

なんてことないってかおをしておくのなんてことないこと  
になるから みさきゆう

〜切なさが香りますね。流していない涙の香りでしょう  
か。(inaya\_yasushi)

傷害致死だろう。ピザカッターならば たろりずむ

〜ピザカッターで切腹してしまう武士を思い出しました。  
ピザカッターとアイス掬うやつは、謎のロマンがあつて好  
きです。(ツマモヨコ)

雨季に降るすべては比喩の後遺症 上崎

〜「比喩の後遺症」は面白いが「雨季に降る」で面白い  
かどうか。言葉の斡旋を考えたとき作り手としては悩まし  
いところかも。(月波与生)

紫陽花のどれをクリックしても詐欺 しまねこくん

〜(いい空だダブルクリックしてみよう むさし)が2  
007年の発表だから、15年経ってクリックがすっかり  
胡散臭い行為になってしまった。(月波与生)

気絶もしくは仮死だったルパートの滴のように生きてる  
みさきゆう

〜ルパートの滴のように……すごい……！(かきもちり)

デバ地下であわや母子とぶつかりそう母子母子外反母趾が

痛いよ 石川聡

「母子母子」の繰り返しが転落していくように「母子  
母子母子母子……」と無限に読んでしまう怖さがある。(月波  
与生)

五分寝て空いた容量分の朝 雷

「思わず唸りました。今年読んだ句の中のベスト1です。  
(月波与生)

渚にて彼女と魚 西沢葉火

「人魚の誕生前夜」と感じた。向い合う「彼女」と「魚」  
の間には、強い緊張感が張りつめている。「人魚」になるこ  
とは、タブーなのだと言えかけてくる。それでも「彼女」  
は人魚になる。タブーは犯されなければならない。(徳道か  
づみ)

凶鑑から出てきた蝶を売り捌く まつりぺきん

「凶鑑に美しい写真で収められて眺められるだけでは我  
慢出来ずに飛び出した蝶。その先に待ち構えていたのは自  
由ではなく、舌嘗めずりする売人だった……。思わず「蝶」  
を「人間」に投影したくなりますが、それだと理屈っぽく  
なつて面白くないですね。凶鑑の蝶は綺麗なので高値がつ  
きそうです。(徳道かづみ)

「スネ夫を想像しました笑(たろりずむ)

へそ出しの女のへその色見本 太代祐一

「さみしくない怖い(ユシヤぼむ)

ドクダミがわたしは苺と唄ひだす きのきよせ

「嗚呼どくだみ大好き。梅雨空にハツとするほどの白。  
その香りも大好きです。(伽羅)